

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・4月から、物価高騰による価格改定を行ったが、客からの不満もなく、どちらかというと高額メニューの方が注文されている。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・今月も葬儀の依頼は順調である。目立ったのは墓じまいや仏壇の処分の依頼が多かったことである。亡くなった後の面倒を見てもらえる人がいない人が相談や依頼に来ている。
	○	スーパー（経営者）	販売量の動き	・前年比では売上は15%増加、来客数は7%減少している。4月から近隣病院の売店に、食料品、弁当の納品が始まった。月曜日から金曜日までの5日間、弁当20個、おにぎり20個、唐揚げ3パック、天ぷら2パックを納品し、金額にして1万4000円ほど、ようやく少し慣れてきたところである。月末にも10万円ほどの仕事が入っており、忙しい。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・季節要因もあるが、1月と比べて宿泊客数は20%伸びている。4月はアイドルのコンサート需要や、桜を目的としたインバウンドツアーが増加し、来客数や客の動きはかなり良い。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・新年度になり、イベントや会合等も増え、人の動きが良い。
	□	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年も例年同様、3月初旬から4月中旬頃まで、学校で新生入生向けの販売を行った。物価はいろいろと上がっているが、教具で使うものは必要な物なので、注文数からみても、ほとんど前年実績から落ちていない。大変助かっている。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・特にこれといった変化も動きもなく、静かな状況が続いている。販売施策を打っても、消費者の購入意欲を引き出せないのが現状である。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・既存店の来客数は安定している。米や卵などの単価上昇で、買上点数は減少しているものの、客単価は微増している。賃上げ効果が出ているのかもしれない。
	□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・当店は、単価というか価格面でやや厳しい。客が単価の低い方に魅力を感じていることを年々実感している。物価高の関係で、売上がやや伸び悩んでいる。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・競合店が開店したため来客数が減り、その後も戻りが少ない。
	□	コンビニ（店長）	販売量の動き	・今月は前年並みの売上を維持しているが、売上金額が前年並みだけで、販売量自体は若干下がっている。単価が上がった分、例年並みを何とか維持できたという状態なので、変わらない。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・以前と変わらず、来客数が減少している。
	□	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・タイヤ交換の需要が高まる時期だが、天候に大きく左右されやすく、来客数は前年より減っている。
	□	その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・単価は確かに上がっている。コスト高で物価が上がっている状況のため、前年より売上は良い。しかし、商材の容量、酒ならばリッター数、米ならば10キロ入りが5キロ入りに変わっていたりと、量的に減っている様子をみると、状況は良いとはいえない。一方では、まだニーズがあるようで2極化が進んでおり、どちらともいえない。
	□	一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・予想外に低迷が続いている。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・良かったのは11月までで、その後はずっと悪い。物価高と自転車の飲酒運転の取締り強化が原因だとみている。

□	観光型旅館（経営者）	単価の動き	・人件費、材料費、燃料代、電気代等の上昇分を価格転嫁している。特に、首都圏からの客には価格上昇を抵抗なく受け入れてもらえている。地元客は価格上昇の影響で利用が減っているが、それ以上に首都圏からの客が増えているため、景気は比較的良好な状況である。
□	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・団体の動きに変わりはないが、個人の動きが鈍い。ゴールデンウィークについても、物価高や燃料価格の高騰で安短や日帰り旅行が増加している。前年比でも80%程度となっている。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・人の動きは昼も夜も悪いが、特に夜の人の動きは最悪である。
□	通信会社（社員）	販売量の動き	・年度替わりで転入居者数は多かったものの、例年ほどではなく、新規加入数も見込みを下回っている。
□	通信会社（社員）	販売量の動き	・米国の関税政策等、相変わらず懸念材料が多い。
□	ゴルフ場（経営者）	お客様の様子	・ゴルファーの来客状況は変わらない。
□	ゴルフ場（副支配人）	来客数の動き	・かつてオンシーズンになると行われていたゴルフコンペは、減少している。
□	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・春休みが終わり、学生やファミリー層の利用が減っている。4月末にはゴールデンウィークを迎えるため、利用を控えているのかもしれない。
▲	商店街（代表者）	お客様の様子	・低温傾向の天候が続き、桜の花持ちが良く、月前半は花見客でにぎわいをみせていた。ゴールデンウィーク前半の月末は日並びが悪く、連休のにぎわいが全くない。
▲	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・前年はターミナル駅ビルに競合施設のオープンがあったため、前年実績はクリアはしているものの、目標には未達である。世界情勢や物価上昇が、購買意欲にプラスとならない。
▲	百貨店（店長）	単価の動き	・まとめ買いが減ってきている。慎重に見極めて、1点を買う傾向である。
▲	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・客は高単価の物を避け、低価格の物を選択している。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・天候の影響もあるが、来客数が伸びない。米類の販売が減少傾向である。各社値上げの影響が出ており、可処分所得が上がってこないことも一因である。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車販売が鈍化している。供給の正常化で受注残が減っており、物価高による車両やガソリン価格の高騰等も影響して、新車受注が落ち込んでいる。
▲	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・車検、一般整備は目標をクリアしているが、車両販売は低迷している。例年、この時期は新卒を含めた若者の車両購入の話が多くなるが、現状の物価高に対して、ほとんどの企業で賃上げがないため、車両購入ができないようである。
▲	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ここ数か月、個人利用の落ち込みが続いており、確実に悪くなってきて、良い要素がない。週末や連休、季節、天候に関係なく、人の動きが明らかに鈍くなっている。
▲	観光名所（職員）	単価の動き	・来客数は増加しているものの、原材料価格高騰の影響で、飲食、売店商材共に大幅に値上がりしているため、価格を見て購入を見送る客も多い。
×	スーパー（店長）	単価の動き	・値上げが続いていることもあり、特売品やセール実施日への客の関心が高くなっている。
×	スーパー（副店長）	お客様の様子	・国が備蓄米を放出しても、米の入荷がほとんどなく、価格も高止まり状態である。ガソリンや電気代等の必需品の価格が極めて高く、買上点数が伸びず、買い控え傾向が続いている。
×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高が続いている。

	×	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・物価高、米不足、増税等で景気が上向く見込みが全くない。4月初めは春休みで来客数も増えていたが、休みが終わると同時に前年割れしており、客単価も低い。今後は政治的要素で変わってくるとみている。
	×	遊園地（職員）	来客数の動き	・天候も良く、イベントを数多く打ち出したが、入場者数が伸び悩む結果となっている。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・大口受注の対応に追われている。
	○	食料品製造業（製造担当）	それ以外	・商材を値上げしたが、1～2割程度の落ち込みで済んでいる。引き続き、学校給食関係の取引があることが大きい。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・少しずつではあるが、小口の受注が出てきている。
	○	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・折込広告は旅行関連、スーパー、通販関係が好調で、前年より出稿数が伸びている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・単発ではあるものの受注はあり、一時的だが仕事量は確保できている。他の仕事は差があるため、平均すると上向きとは言い難い。
	□	金融業（調査担当）	取引先の様子	・非製造業は観光関連を中心に国内、インバウンド需要共に堅調である。一方、製造業はI T関連の在庫調整が長引いており、持ち直しに力強さがみられず、全体として足踏み状態にある。
	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・インバウンドの回復により、関連業種の景気は上向いている。一方、その他の業種は物価高などの影響を受け、下向きとなっている。総じて変わらない。
	▲	食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子	・各メーカーともシンガポール、台湾等に輸出を試みているが、現状、十分な成果を得られていない。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・宝飾品の材料である地金価格の高騰が止まらない。客の買いやすい価格帯で商材作りができないことが、買い控えの原因になっている。
	×	*	*	*
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	求職者数の動き	・相変わらず、求人依頼は多いものの、求職者は少ない。条件だけで仕事を探す求職者が多く、なかなか難しい。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数を前年同月比でみると、ほとんどの産業が増減を繰り返している状況にある。ただし、生活関連サービス業、娯楽業については、減少傾向がみられる。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・3月の求人受理状況は、前月同様、管内主要産業の1つであるサービス業のうち、労働者派遣業の求人が前年同月比8割減少している。前年は、好調な製造業複数社から求人が出され、一定数充足したことも要因だが、今年は製造業の派遣求人を中心に減少が目立っている。
	×	—	—	—